
SAVE 'ファイル名文';

機能:

SAVE は 現在ユーザーが定義したすべての TSP 変数をファイルに書き込みます。このファイルを後に RESTORE コマンドでリストアすることができます。

使用法:

SAVEは既定では TSPSAV.SAV という名前のファイルを作成します。もしファイル名文が与えられると、ファイルタイプ .SAV が付いていない場合は付けられます。このファイルはユーザーが定義した系列、パラメータ、定数、行列、式とリストを含むすべての変数を含みます。さらに、現在の SMPL も含みます。

SAVE コマンドは、対話型セッションを一時中断し、後に再開する場合に役立ちます。さらに、後のコマンドや停電等のトラブルによって TSP が中断した場合に備えてセッション環境を保存しておくのにも便利です。一般に、データバンクや通常のファイルに TSP 変数を保存しておく方がよく、それはもとの内容とどのようなファイルの内容を決定するのが簡単で、これらのファイルが他のコンピュータに変換可能であるためです。

SAVEは、各変数の実際の値の代わりに TSP 変数名とタイプを含んだバイナリーファイルを作成します。RESTORE コマンドはこのファイルを読むことができ、SAVE コマンドが実行されたときに前に存在していたように TSP 変数を再現します。その名前が@で始まる変数は保存されません。すなわち、この変数は推定プロシジャーで通常実行される@RES のように、TSP プロシジャーでの中間結果と仮定しています。

例:

```
SAVE;
```

は TSPSAV.SAV を作成します。もし TSPSAV.SAV がすでに存在していれば、破壊されます。

```
SAVE FOO;
```

は、FOO.SAV を作成します。

アウトプット:

現在の SMPL が、保存されていればプリントされます。